

## 名古屋工業大学

【N047 名古屋工業大学】

	名古屋工業大学 工学分野
学部等の教育研究組織の名称	工学部第一部（第1年次:910 第3年次:10） 工学部第二部【夜間】（第1年次:20） 大学院工学研究科（M:586 D:42）
沿革	明治38（1905）年 官立名古屋高等工業学校創立 昭和18（1943）年 愛知県立高等工業学校創立 昭和19（1944）年 名古屋高等工業学校を名古屋工業専門学校に改称 昭和19（1944）年 愛知県立高等工業学校を愛知県立工業専門学校に改称 昭和24（1949）年 新制名古屋工業大学工学部設置 昭和26（1951）年 短期大学部設置 昭和34（1959）年 短期大学部を工学部第二部に改組 昭和39（1964）年 大学院工学研究科修士課程設置 昭和60（1985）年 大学院工学研究科博士課程設置
設置目的等	名古屋工業大学工学部の母体の一つである名古屋高等工業学校は、明治38年に名古屋の地に産業基盤を創り上げ、その中心的役割を果たす産業人を育成することを目的に創設された。 もう一つの母体である愛知県立高等工業学校は重工業地帯名古屋地方に於ける生産増強の重任を担う産業技術者養成を目的に、昭和18年に創設された。 新制国立大学の発足時の昭和24年には、名古屋工業専門学校と愛知県立工業専門学校とが合併し、工業に関する学術の教授ならびに研究を行い、人類の平和と幸福とに貢献し得る人間の育成につとめることを目的とし、あわせて地方産業の技術的開発に寄与することを使命に、名古屋工業大学工学部が設置された。 昭和26年に、憲法に規定する教育の機会均等の趣旨に則り、向学心にもえる工業勤労青年に対し、夜間に於いて工業に関する専門教育を施すことを目的に、短期大学部が設置された。 昭和34年に、短期大学部を改組し工学部第二部が設置された。 昭和39年に、本学の目的使命に則り学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて文化の進展に寄与することを目的に、大学院工学研究科修士課程が設置された。 昭和60年には、高度の専門技術者及び研究者の育成を図るため、広い視野と深い学識、斬新な創意性と国際的感覚を兼ね備えた実践的人

	材の養成のため、大学院工学研究科博士課程が設置された。
強みや特色、社会的な役割	<p>名古屋工業大学においては、常に新たな産業と文化の搖籃として、革新的な学術・技術を創造し、有為な人材を育成し、これからのグローバル社会の平和と幸福に貢献することを基本使命として教育、研究、社会貢献に取り組んでおり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 产学官連携による実務型教員を活用した教育及び各界トップによるキャリア教育並びに海外修業による実践的工学エリート教育を開発し、高度かつグローバルな技術者等の専門職業人の育成の役割を充実するとともに、研究能力を有する先導的な人材育成の役割を充実する。</li> <li>○ 課題設定力、データ分析力などの基礎的な研究力に加え英語表現力や発想力を特別に育成することで研究モチベーションを早期に高める取組など特色ある教育を進めてきた実績を生かし、国際的水準を踏まえ、基盤産業の革新と新産業の創成を担うグローバル工学系人材を育成するための一貫的な学部・大学院教育を目指した改革など、高等教育の柔構造化を展望し、産業・社会ニーズを踏まえた教育システムの不断の改善・充実を図る。</li> <li>○ 工学の多くの分野における高い研究実績やセラミックスを中心とした材料科学及び化学分野などにおける世界トップレベルの研究実績を生かし、先端的な研究を分野横断的な連携の下に推進する。</li> <li>○ 国内外における世界トップレベルの大学・研究機関等との連携による工科系の国際教育研究拠点を形成するとともに、ダブルディグリープログラムなど本学及び海外連携先の学生・若手研究者に対する研鑽の機会を拡充し、教育・研究の国際化を推進する。</li> <li>○ 共同研究の受け入れや、特許取得数・知的財産活用等収入が我が国トップクラスであり、今後とも我が国並びに地域の産業を支え、イノベーションにつながる実践的な研究等の取組を一層推進する。</li> <li>○ グローバルに展開する東海地域の中堅・中小企業の技術者を支援する工場長養成塾及び3D-CAD設計技術者育成講座などの社会人学び直しプログラム、アジア人財社会人教育プログラムなどの実績を</li> </ul>

生かし、社会人教育を推進し、社会的要請に応える。